

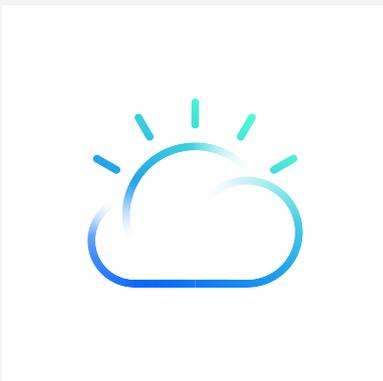


FinTechおよび新規事業の推進拠点「アフラック・イノベーション・ラボ」

カスタマーファースト推進のため、ITインフラにIBMのプライベート・クラウド基盤を導入し、スピーディーな商品開発と最適なコストを追求

少子高齢化、人口減少など厳しい経営環境の中で、保険業界では既存商品の高品質化、サービスの高度化が求められています。がん保険、医療保険の最大手であり、創業50周年にあたる2024年に目指す姿として「Aflac VISION2024」を掲げるアフラック生命保険株式会社（以下、アフラック）では、多様化するお客様ニーズに迅速に対応するために、プライベート・クラウド技術を活用し、迅速かつ柔軟にITインフラを構築できる環境を整備しました。1500万人を超えるお客様、2400万件以上のご契約という圧倒的な顧客基盤を持つ同社は、この柔軟なITインフラ基盤によって、「生きる」を創るリーディングカンパニーとしてさらなる飛躍を遂げようとしています。

【導入製品・サービス】 ● IBM Cloud Private ● Software Defined Networking



課題

- 時代の変化に対応したイノベティブな発想に基づいた新商品や新サービスのスピーディーな開発
- 新たな顧客体験価値を創造し、提供
- アジャイル化に対応するサーバー環境の自動化、効率化、最適化

ソリューション

- サーバー環境構築の自動化、効率化を促進し、カタログベースのサービスを提供可能とするIBM Cloud Privateの採用により先進的なインフラ基盤の提供
- これにより、クラウド・ファーストを実現するためのアジャイル型サービス提供基盤を整備
- クラウド技術導入によって、製品やサービスのサポート期間終了に伴う作業負担やコストの低減が可能

効果

- 新商品や新サービス開発のために必要なITインフラの構築に要していた時間を大幅に削減
- 社員がルーチンワークから解放され、クリエイティブな業務にシフトし、より多くのニーズに対応可能になり、働き方改革にもつながる

【お客様課題】

多様化するお客様ニーズに応えるため、
ウォーターフォール型からアジャイル型へ

「人生100年時代を迎えてお客様のニーズは多様化しています。それに対応するためには“カスタマーファースト”にフォーカスして、迅速に商品やサービスを生み出していかなければなりません」とアフラックのIT戦略をリードする常務執行役員 チーフ・インフォメーション・オフィサーの二見 通氏は語ります。

がん保険、医療保険の最大手である同社は、さらなるサービスの向上のために、意欲的な新しい取り組みを広げてきました。保険料の返金などのお客様への送金にセブン銀行で利用できる口座不要の「現金受取サービス」を生命保険業界で初めて導入し、さらに三菱UFJ銀行のインターネットバンキングサービス「BizSTATION」を活用したがん保険の給付金即時支払いサービスを開始します。

アグレッシブに変革を進める同社が取り組んでいるのが、デジタル技術の活用とオペレーションモデルのアジャイル化です。「アジャイル化を進めるのは、ITの領域だけではありません。商品設計や人事制度改革など社内の仕組みそのものを、従来のウォーターフォール型からアジャイル型にシフトさせています」(二見氏)。

デジタル技術活用の要件は、スピーディー、高品質、コスト抑制という3つの点です。「これまでは1つの保険商品を世に出すのに、“計画に1年、開発に数年”というのが当たり前でした。まさにウォーターフォール型の開発です。しかし、これからは違います。もっと短いサイクルで商品を生み出していかなければなりません。その実現を支えるITインフラに求められる要件も変わってきて当然です」(二見氏)。

アジャイル型の開発プロジェクトに対応しながら、金融機関として必要十分な堅牢性を担保できるITインフラこそが、同社の求める理想の姿でした。課題となるのはシステム環境、特に新規開発のためのサーバー環境の自動化、効率化、最適化です。この課題を解決するために、同社はクラウドというソリューションに注目しました。

【ソリューション】

基幹業務と連携する保険業務に最適な
堅牢でスピーディーなプライベート・クラウド基盤を導入

柔軟かつ迅速にサービスを提供するために、同社はクラウド戦略に舵を切りました。具体的にはIaaSとしてのプライベート・クラウドを採用し、既存の基幹システムや他のクラウド・サービス(SaaS)と連携させる方針を打ち立てます。そのクラウド基盤として選ばれたのが、IBM Cloud Privateです。

二見氏は「さまざまな種類のクラウド・ソリューションがありますが、保険業務ではデータの信頼性、システムの堅牢性、柔軟性、ホストとの連携の容易性が特に重要です。これらの点から見て、IBM Cloud Privateが最適であると考えました。IBMとは、アウトソーシングでインフラを支えてもらっている信頼関係もありますので、品質の面でも安心して任せられます」と選定の理由を語ります。

IBM Cloud Privateでは、さまざまなソフトウェアが提供されるとともに、クラウド・ネイティブ・アプリケーションの開発と運用に必要な環境を、プライベート・クラウドとオンプレミス環境の両方で迅速に構築でき、マルチクラウド環境との融合も容易に実現できます。

特に、IBM Cloud Privateの一機能であるIBM Cloud Automation Manager (CAM)のセルフサービス・カタログを活用することで、他社のクラウドを含めたマルチプラットフォームのサーバー環境の構築を自動化できます。標準化、パターン化された環境を自動的にデプロイすることで、ビジネスの変化のスピードにも、システムが対応できるようになります。

保険業務ではデータの信頼性、システムの堅牢性、柔軟性、ホストとの連携の容易性が特に重要です。これらの点から見て、IBM Cloud Privateが最適であると考えました。



アフラック生命保険株式会社
常務執行役員
チーフ・インフォメーション・オフィサー
二見 通氏

また、IBM Cloud Privateでは、オープンテクノロジーをベースに企業の次世代システム基盤に必要な技術が統合され包括的に提供されていて、AI、ブロックチェーン、APIなど、将来的なITトレンドの変化に対応できる柔軟性と俊敏性も手に入れることにもつながります。

プライベート・クラウド基盤をメインフレームで構成される既存の基幹システムとスムーズに連携、共存させるため、IBMがこれまでに培ってきたアフラックのサーバー環境に関する深い理解に基づいて構築を支援し、アフラックは2018年10月1日から本番環境での利用を開始しました。ネットワーク環境については、仮想化技術のSoftware-Defined Networking (SDN)により、迅速かつ柔軟なネットワーク管理を実現しています。



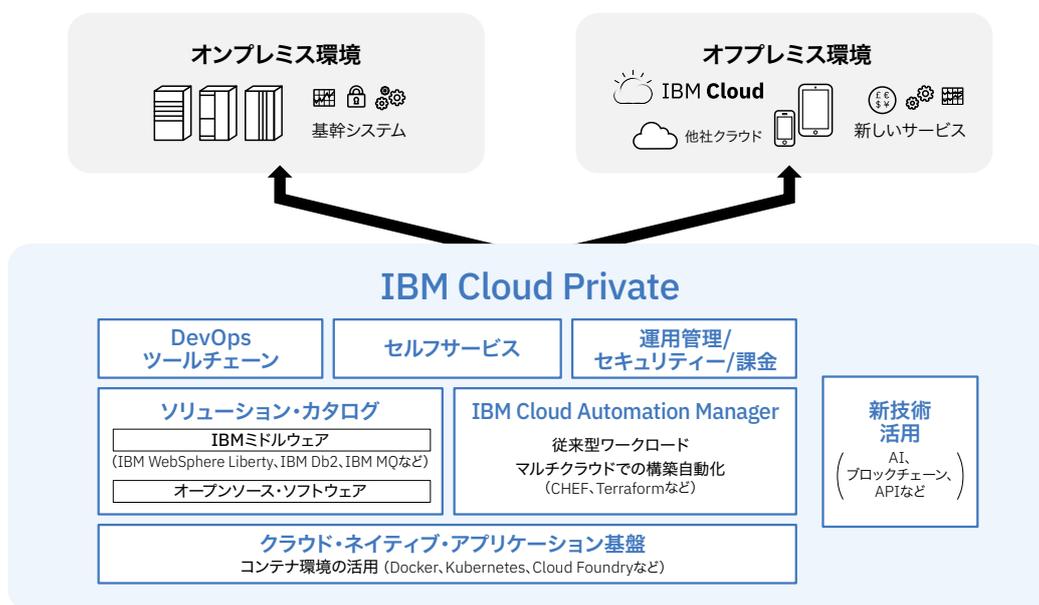
【効果/将来の展望】

ITインフラの構築期間を短縮し FaaSの本格展開にもつなげたい

IBM Cloud Private 導入による最大の効果は、ITインフラのセットアップにかかる時間が大幅に短縮されたことです。「2カ月ほどかかっていたものが、3日ほどで完了するようになり、コスト削減と、担当者をルーチンワークから解放することにつながっています。基盤サービスを担当するメンバーは、クリエイティブな業務にシフトして、より多くのニーズに対応できるようになりました」と二見氏は評価します。

また、クラウドでは、製品やサービスのサポート期間終了という制限に悩まされることはありません。IT担当者は契約関連の作業や製品の非互換性による要件定義や設計作業といった非生産的な業務から解放されます。「労働時間の短縮も含めて、IBM Cloud Private の導入は働き方改革につながるものだと実感しています」と二見氏は語ります。

プライベート・クラウド基盤構成イメージ



システム環境の品質面で大きな効果をもたらしているのが、IBM Cloud Automation Manager (CAM)のセルフ・サービス・カタログです。これを活用することでプラットフォームのサーバー環境構築が自動化され、従来の作業による設定と比較し、設定の迅速化を図ることができ、手戻りもなくなりました。

「IBMのこれまでの知見が盛り込まれているので、安心して任せることができ、サーバー環境の自動化、標準化についても一定のルールに基づいて取り組めるようになりました。今後、さらにレベルアップを図っていきます」(二見氏)。

同社ではFinTech活用および新規事業の推進拠点として「アフラック・イノベーション・ラボ」を開設するなど、オープンイノベーションに積極的に取り組んでいます。二見氏は「変化は待っていても起こりません。自ら起こすものです。その際に大事なのは確固たるビジョンとクイックに動ける環境です」と指摘します。

また、サーバーレスのクラウド環境であるFaaS(ファンクション・アズ・ア・サービス)についても検討を開始しました。FaaSの導入により、サービスを実現させるアプリケーションのフレームワーク部分までクラウド利用により標準化させることで、ITインフラを意識することなく、アプリケーション開発に着手するまでの時間を短縮し、サービス提供のスピードを速めることができます。「究極の姿はITインフラを一切持たないこと」と二見氏は話します。変化に対応する基盤であるクラウドへのシフトは、同社の変革を加速させるエンジンでもあるのです。オープンなクラウド・プラットフォームを支えるコンテナ基盤を持つIBM Cloud Privateであれば、FaaSへの移行もスムーズに実現できるものと期待します。

「生きる」を創る。



アフラック生命保険株式会社

〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
<https://www.aflac.co.jp/>

1974年11月、米国生命保険会社(American Family Life Assurance Company of Columbus)の日本支店として創業し、日本初のがん保険を発売。以降、1985年に世界初の痴ほう介護保険、2002年に終身医療保険を開発するなど、がん保険や医療保険など第三分野と言われる「生きるための保険」を中心に事業を展開。現在、1500万人を超えるお客様から2400万件以上のご契約をお預かりしている。また、2018年4月2日には、これまでの日本支店から日本法人(株式会社)へ会社形態を変更し、「アフラック生命保険株式会社」として新たな一歩を踏み出した。



©Copyright IBM Japan, Ltd. 2018

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

このカタログの情報は2018年11月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。記載の事例は特定のお客様に関するものであり、全ての場合において同等の効果が得られることを意味するものではありません。効果はお客様の環境その他の要因によって異なります。製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。IBM、IBMロゴ、ibm.com、Db2、IBM Cloud Private、Terraform、およびWebSphereは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corp.の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBM商標リストについてはwww.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。